

## 【開雅な食慾】現代語解釈

- 【A】  
 1 寒くなつてきた秋の夕方に私は、松の木がたくさん生えた林の中を歩いていた。  
 2 暫く歩いていると、とてもおしゃれな喫茶店を見つけた。  
 3 遠く街も見えない程の離れたところにあり  
 4 誰も訪れる人がいない。  
 5 林の間に、隠された昔の記憶にあつたこの世界はないような喫茶店だつた。  
 6 従業員らしい少女は、はにかみながら7日の出の色のように美しい、高級そうな皿を運んでくる様子。  
 8 私は、ゆっくりとフォークを手に持ち  
 9 オムレツ、魚のフライなどの料理を食べた。  
 10 夜が近づいてきた空には、白い雲が浮かび  
 11 ても趣のある食事であつた。
- 【B】  
 1 ある春の昼時、松の生い茂るくらい林の中を話者は歩いていたとき  
 2 日の光を浴びている一軒のカフェを見つけた  
 3 街からだいぶ離れているところで  
 4 人が訪れる様子はなく  
 5 松の生い茂る林の中に建つ、昔夢に出てきたよ  
 うなカフェである。  
 6 店で働く女の子は恥ずかしがつていた。  
 7 まだ仕事を始めたばかりなのだろうが、さわや  
 かに頼んだメニューを運んできてくれた。  
 8 私はゆつたりとした気分でフォークを手に取り  
 9 頼んだオムレツやフライなどを食べた。  
 10 青空には白い雲が浮かんでいて  
 11 とても上品な食事だつた。
- 【C】  
 1 笑い声が聞こえてくる明るい雰囲気の喫茶店を見つけた。  
 2 その喫茶店は街外れの山にあつて  
 3 あまりにも山奥にあるため、誰も訪れてくる人はいなくて  
 4 絵本に出てくるような古い感じの喫茶店である。  
 5 私は店の中に入り、一番奥のテーブルに通され  
 て周りを窺つてみると、  
 6 おとめが恥ずかしそうに

- 【D】  
 1 私は松林の中を散歩していた。季節は春で、空気は暖かく、さっきまで雨が降つてたと信じられないくらいに空は青く澄んでいた。道のあちこちにできた水たまりや松の葉のしづくは空を移してきらりと光り、眩しかつた。  
 2 暫く歩いていると少し離れたところに赤い屋根が見えた。カフェだ。光に満ちた世界に現れたカフェはまるで絵に描いたようなおとぎ話の一場面だつた。  
 3 私の住んでいるところのすぐ近くに高速道路や電車が走つていたが、その喧騒もこの場所まで届かずかすかに聞こえる波の音で満ちていた。  
 4 周りには私の他に誰もいなかつた。  
 5 松林の中に隠されたカフェは過去に来たことがあるような雰囲気で、夢で見るような理想的な姿に、しばしば足を止め眺めていた。しばらく歩いたことで少しお腹が空いていた私は、そのカフェに入ることにした。  
 6 「いらっしゃいませ。」と声をかけてくれた少女はまるで初めてお客を迎えるかのように頬を桜色に染めていた。  
 7 窓際の席に案内され、そこに座ると、少ししゃれた手書きのメニューを受け取つた。私はその中からオムレツといくつかのフライを注文した。あけぼののよう爽快な皿に盛られた料理は一つ一つ少女が運んできた。  
 8 私はゆつたりとフォークを取つて  
 9 オムレツとフライを口にすると柔らかなオムレツとさくっと揚げられた食感が口いっぱいに広がつた。  
 10 青く澄んだ空には白い雲が浮かんでいて、理想の状態で小腹を満たす一時は幸福だつた。